

CESリカラー 水性ウレタンベースコート&トップコートの使い方

1. まずは塗装対象の脱脂を行う。

コンディショナーNo.1が色ハゲしづらいので失敗しにくくおすすめですが、強烈に脱脂したいときは目立ちにくい部分で様子を見ながらCESシンナー(240130)で脱脂します。最初の脱脂と汚れ落としは最終仕上がりに大きく影響しますので、手を抜かずしっかりと。
※ワンポイントアドバイス→仕上げの基準にする元色は必ず少しだけ脱脂せず残しておくこと。

2. ヤスリがけが必要な際はヤスリがけしてください。

ヤスリがけあとはエアスプレーで削りカスなど吹き飛ばし、再度コンディショナーNo.1で脱脂してください。
※ #400~#600の紙やすりでヤスリ掛けするとより塗料が強く定着します。

3. トップコートを使用したカラー剤をつくる

【カラー剤の作り方】

① フェニックスプロレザーカラーペーストを使用して調色する

※近い色ができたら実際に靴に塗ってドライヤーで完全に乾かして、色が馴染むかチェック。馴染まなければすぐに水で少し濡らしたウエスなどで拭き上げるとすぐに取れます。

② 調色が完了したカラーペーストを1 水性ウレタントップコートを1 水を1の割合で加える。

③ よく混ぜたら完成です。

④ 筆やスポンジで、作った塗料を常にかき混ぜながら塗布して下さい。

発色の良い顔料ほど沈殿しやすく、混ぜず使うと色が途中で変わるおそれがあるためです。



おすすめ配合その1

カラーペースト : ウレタントップコート : 水 = 1 : 1 : 0.3

加水を極端に絞った顔料強めで革の目がないレザー製品向け

DANNER・REDWINGなどの顔料強いレザー

白系全般・アイボリー・ベージュ・オフホワイトのスニーカー

CHANELのベージュ・ホワイト系のパンプス

バレンティノなどのパープル系のパンプス

ドクターマーチンなどのガラスレザー



おすすめ配合その2

カラーペースト : ウレタントップコート : 水 = 1 : 1 : 1

悩んだらこれ、万能型の配合

革の目がある程度あり、多少は塗料を吸い込みそうな革の際にこの基準の配合が良く合います

まずはこの配合を基準に慣れていくのがいいでしょう

革のシボが強かったり、塗膜っぽくない質感で、できるだけ自然に仕上げたい際にはもう少し加水して調整してみてください

4.ウレタンベースコート^①を原液で塗布

調色と濃度調整が済んだカラー剤入のウレタントップコートが完成したら、まず、塗布対象にウレタンベースコート^①を塗布します。原液で筆・スポンジ塗りで大丈夫です。まんべんなくしっかりと塗布したら30分ほど乾かしましょう。

5.カラーペースト入のウレタントップコート^②を塗布

筆でもエアブラシでもどちらでも大丈夫ですが、エアブラシをご使用の際は液詰まりが無いように、ほどよく加水してください。

6.色止め

塗装が終わったら**半日以上乾かして**、最後に色止めをします。最後のページにまとめていますが、

ラッカー系のスプレータイプ

→色止めは弱く、手早く簡単にできます。全体塗装の際や、主に靴の使用におすすめ。

ウレタントップコートにリヴァイズクリームのツヤ有・無、水を混ぜてエアブラシで吹き付け

→色止め力は高く、ツヤ度合いも自由自在に調整できます。カバンなどにもおすすめ。

靴クリームとワックスで色止め

→色止め力はそこまで高くありませんが、ドレスやビジネスシューズなどの仕上げに向いています。靴限定の仕上げ。

塗布の際のトラブルシューティング

Q.ウレタンベースコート^①がしっかりと定着しない&ウレタンベースが弾かれてしまう

A→脱脂がうまくできていません。コンディショナーで再度拭き上げるか、トルエン系のより協力的なシンナーでしっかりと脱脂してください。

Q.レザーのようなきれいな発色がでない

A→ウレタントップコート^②の量が多いかもしれません。ウレタントップコート^②が多いとペンキのようなのぺっとした表情になります。加水して微調整するなどして濃度を調整してください。

Q.色が濃く載らない。革が色を吸い込んできれいに発色しない

A→革の網状層が塗料を吸い込みすぎているかもしれません。傷やスレが強く、網状層まで露出している場合の塗布に関してはウレタンベースコート^①を2、3回重ねてください。吸い込みを防ぐことができます。

Q.ウレタントップコート^②が塗るたびにぼろぼろと取れてくる

A→脱脂不足、塗料の乾燥不足が原因です。ウレタンベースコート^①は塗布してからしっかり乾燥させて、その後カラーペースト入のウレタントップコート^②を塗布してください。また、ウレタントップコート^②も一度塗ったらドライヤーなどで乾かしてから二回目の塗布など、塗っては乾かす、塗っては乾かすを心がけましょう。

色補修で必要な商品



PRODUCT CODE: #951025、他

PPレザーカラーペースト

絵具感覚で調色できる着色能力の高いウレタン系カラーを採用しています。樹脂量が少なく、顔料成分が高いため、色づきが強く、CESリカラーシリーズとの相性が良いです。基本的には水性ウレタントップコートと混ぜてご使用ください。



PRODUCT CODE: #482452、他

CESリカラー 水性ウレタンベースコート

水性のウレタン性の下地材となります。原液のまま、脱脂した革に塗布することで非常に強い下地となり、カラー剤の発色をきれいにすることが可能です。革に脂分が多かったり、汚れがあるままで使用すると本来の効果が薄まるのでご注意ください



PRODUCT CODE: #482454、他

CESリカラー 水性ウレタントップコート

水性のウレタン性のトップコートとなります。カラーペーストと混ぜて塗布することで、強い塗膜としっかり色を定着させることが可能です。また、リヴァイズクリームとのツヤ有・無を組み合わせることで、ツヤ合わせも可能です。



PRODUCT CODE: #489607、他

CR リヴァイズクリーム

色の定着力が高く、またマットな形で自然な革の風合いに仕上げられます。塗布しやすいように刷毛伸びに優れています。ツヤ有・無をトップコートと組み合わせることで吹付けて色止め剤として使用もできます。



PRODUCT CODE: #951020

PP レザー用パテ

革のキズやひび割れの修復に使用します。強力な密着力と柔軟性を持つ皮革用パテです。とはいえパテには変わりないので、芯材付近や、曲がりの少ない箇所での使用をおすすめします。



PRODUCT CODE: #951055、他

PP トップコートスプレー

革の色・ツヤをリアルに表現できる油性トップコートスプレーです。樹脂成分を含んだスプレーなので、多少の色止めとしての効果もあります。バッグ・衣料など広範囲の塗装後にも短時間で仕上げできます。



PRODUCT CODE: 267612、他

布ペーパーフレックスクロス

耐水ペーパーです。柔軟性に富んだ基材を使用しているため、どのような曲面にもよくなじみ、復元力も抜群です。縦・横自由に簡単に引き裂いて使用できるのでノンストレスで作業できます。空研ぎ、水研ぎ兼用です。



PRODUCT CODE: 951050

PP タックストップスプレー

革・塩化ビニールなどのベタツキを除去します。バッグの内張りの塩化ビニールやエナメルなどのベタツキの原因は可塑剤の気化による加水分解で発生します。タックストップスプレーは失われた成分が浸透し塗装面を形成させソフトに仕上げます。革やエナメルのツヤを復元させるトップコートとしても使用できます。



品での販売はございません

棒ヤスリ

局所のヤスリに非常に効果的です。とくに裂けに近い傷や、引っかき傷は通常のヤスリではケアしづらいため、使用します。クラック埋めの際のヤスリとしても必需品となります。

部分補修



手順1

脱脂・色合わせを行う

皮革の汚れ具合に応じてコンディショナーNo1やトルエンなどで脱脂と汚れ落としをする。その後PPレザーカラーペーストで色合わせをして、元色の調色を行う。
※調色は実際に合わせたい色の上に乗せ、乾いた際に色が溶け込んだらOK



手順2

CESリカー水性ウレタントップコートを塗布

CESリカー水性ウレタントップコートを原液で塗布します。部分補色の場合は周辺に、全体塗装の際には全体に塗布してください。全体の場合は2周ほど原液塗布するとより密着が増します。



手順3

調色したカラー剤を塗る

手順1で調色したカラーペーストとCESリカー水性ウレタントップコート、水を約1:1:1くらいの割合で混ぜる。この際、発色が悪くなる可能性もあるので、背景色が出てくるときは顔料革の場合は水を少なめ(半分くらい)で最初調色すると良い。



手順4

ツヤ調整を行う

手順3が終わったら、半日から1日ほど乾かしてから、ニュートラルクリームを少しだけ薄く入れ込み、ワックスで色止めする。マット仕上げをしたい場合はマットのスプレーを吹き付ける。

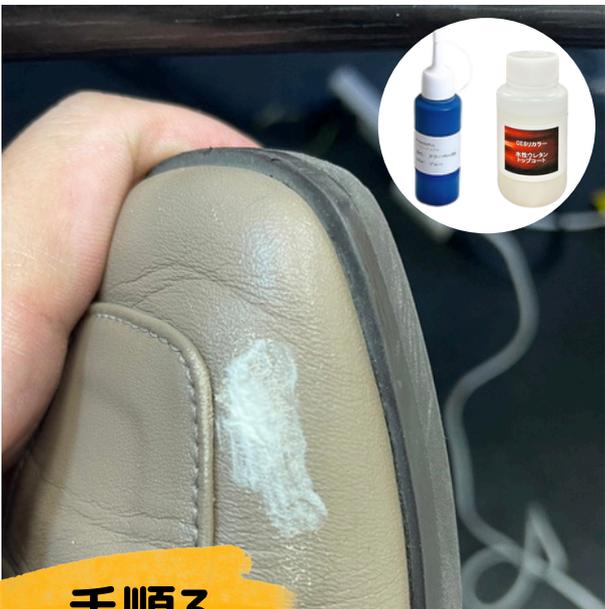
パテ埋め+部分補修



手順1

脱脂・色合わせを行う

皮革の汚れ具合に応じてコンディショナーNo1やトルエンなどで脱脂と汚れ落としをする。その後PPレザーカラーペーストで色合わせをして、元色の調色を行う。その後、傷の症状に合わせて#400~#800で手ヤスリします。



手順3

調色したカラー剤を塗る

手順1で調色したカラーペーストとCESリカー-水性ウレタントップコート、水を約1:1:0.3くらいの割合で混ぜる。今回は顔料が強い&グレイージュ色の革だったので、極端に水の量を減らし、発色重視で塗ります。ウレタントップを増やすという手も◎



手順2

パテ埋め・ベースコートを塗布

PPパテペーストを多めに乗せ、乾燥後にヤスリがけを行い、なだらかにする。その後CESリカー-水性ウレタントップコートを塗布し、乾燥させます。※パテをきれいにヤスリかけしないと最終仕上げに大きく影響します。ここがミソです。



手順4

ツヤ調整を行う

半日から1日ほど乾かしてから、部分補色の場合は周辺のツヤも合わせないといけないため、リヴァイズクリームツヤ有・無でツヤ感を調整し、ウレタントップコートと混ぜて同量の水で割り、吹き付ける。もし全体の艶感を変えていいならトップコートを全体に吹き付けても。

全体塗装



手順1

脱脂・色合わせを行う

皮革の汚れ具合に応じてコンディショナーNo1やトルエンなどで脱脂と汚れ落としをする。その後PPレザーカラーペーストで色合わせをして、元色の調色を行う。
※調色は実際に合わせたい色の上に乗せ、乾いた際に色が溶け込んだらOK



手順2

CESリカー水性ウレタンニス-スートを塗布

CESリカー水性ウレタンニスを原液で塗布します。部分補色の場合は周辺に、全体塗装の際には全体に塗布してください。全体の場合は2周ほど原液塗布するとより密着が増します。



手順3

調色したカラー剤を塗る

手順1で調色したカラーペーストとCESリカー水性ウレタンニス、水を約1:1:1くらいの割合で混ぜる。この際発色が悪くなる可能性もあるので、顔料革の場合は水を少なめ(半分くらい)で最初調色すると良い。



手順4

トップコートを吹き付ける

手順3が終わったら、半日から1日ほど乾かしてからトップコートを吹き付ける。その際にツヤの度合いは各々のツヤ感のトップコートを選んでください。※部分補色の場合は周辺の色に合うようにツヤの調整も必要になります。

全体補色



手順1

脱脂・色合わせを行う

皮革の汚れ具合に応じてコンディショナーNo1やトルエンなどで脱脂と汚れ落としをする。その後PPレザーカラーペーストで色合わせをして、元色の調色を行う。
※調色は実際に合わせたい色の上に乗せ、乾いた際に色が溶け込んだらOK



手順2

CESリカー-水性ウレタン-スートを塗布

写真のように傷が目立つ場合は#400～#600で手ヤスリをします。その後、再度脱脂してCESリカー-水性ウレタン-スを原液で塗布します。全体塗装の際には全体に塗布してください。全体の場合は2周ほど原液塗布するとより密着が増します。



手順3

調色したカラー剤を塗る

手順1で調色したカラーペーストとCESリカー-水性ウレタン-スート、水を約1:1:0.3くらいの割合で混ぜる。今回のように白い顔料革の場合は水を少なめで調合すると発色が良く、色が吸い込まれにくいです。



手順4

ツヤ調整を行う

手順3が終わったら、半日から1日ほど乾かしてから、PPトップコートスプレーのツヤ消しを吹き付けます。シロ系はただでさえツヤが出やすいのでマットよりに仕上げると全体の雰囲気が良いになります。

パテ埋め+全体補色



手順1

脱脂・色合わせを行う

皮革の汚れ具合に応じてコンディショナーNo1やトルエンなどで脱脂と汚れ落としをする。その後PPレザーカラーペーストで色合わせをして、元色の調色を行う。
※調色は実際に合わせたい色の上に乗せ、乾いた際に色が溶け込んだらOK



手順2

手ヤスリ+パテ+ベ-スコ-ト

写真のように傷が目立つ場合は#400~#600で手ヤスリをします。その後、再度脱脂してパテ埋めを行います。その後、よく乾かして再度手ヤスリ、CESリカー-水性ウレタンベ-スコ-トを原液で塗布します。全体塗装なので2周ほど原液塗布するとより密着が増します。



手順3

調色したカラー剤を塗る

手順1で調色したカラーペーストとCESリカー-水性ウレタントップコート、水を約1:1:0.3くらいの割合で混ぜる。今回のように塗膜感が強いDANNERのような仕上げの際はウレタントップを少し多めにしておくとよりDANNERに近づきます。



手順4

ツヤ調整を行う

手順3が終わったら、半日から1日ほど乾かしてから、PPトップコートスプレーのツヤ消しを吹き付けます。もしツヤが少し欲しいときはこの上からツヤ有スプレーを吹き付けても大丈夫です。

色止めについての考察

基本的には三種類の止め方を推奨
色止めとツヤ調整を同時に行う方法です

● 乳化性クリームとワックス止

各社乳化性クリームやワックスなど

おすすめ：ドレス・ビジネスなどの顔料・染料仕立て
光沢の調整をワックスでかけやすいので、靴磨き風に
仕上げることができます。

※アクリル塗料の作業の場合とカバンや衣類は非推奨



● CESリカラーウレタントップコート

ウレタントップコート+水+リヴァイズクリーム

おすすめ：つま先などの部分補修の際の色止め

ツヤ合わせの微調整が可能なので塗料を塗っていない箇所(元色)に
対してピンポイントでツヤ調整が可能



● PPトップコート(ラッカー止)

PPトップコート(ツヤ有・ツヤ無・スタンダード)

おすすめ：全体染の色止め

ツヤの調整は難しいが、エアゾールスプレータイプなので、
全体のツヤ調整が瞬間で作業することができる



注意点

どの色止め方法も塗料塗布後

24時間の自然乾燥後に処置することを推奨

個人的な色止めの強度としては

水性ウレタン>ラッカー>乳化性クリーム・ワックス